

..... 編集後記

◆新しい年が始まりました。今年は「卯」の年ですが、「卯」の字は門を開いて福を迎えるという意味があり、今年は景気も回復するのではないかと年配の方から教わりました。また「卯」は時刻で午前6時、方向で東とありますので不景気な時代が明けののかも知れません。

テレビではコンピュータの2000年問題が報じられています。電子機器音痴の私には良く理解できない話ですが、とにかく大変な話のようで、ハイテク文化にも思わぬ落とし穴があるものだと驚いています。

一方では、行政改革の一環として、我が国の国立研究所の多くが独立行政法人となるとのことで、筑波でもその準備が静かに進んでいます。日本で最初の国立研究所として設置され、国土の地質、資源・エネルギーの調査・研究などを通じて国の繁栄に寄与してきたと自負する地質調査所も例外ではなく、どのようなことになるのか、実体は不明です。地質調査所にとっては多難な年になりそうですが、皆様には、本年こそは良い年でありますように願っています。

◆さて、地質調査所では毎年「最新地質図発表会」を開催しておりますが、遠隔地の方の参加は困難です。このため、今月号には最新地質図類の簡便な説明記事を集めました。各地で地質散歩の参考にな

れば幸いです。地質の情報を一般の人々に有効に活用して貰うためには、地質図が出版された地域で説明会を開くのが最も効果的でしょう。地質調査所では一昨年から地方地質情報展を開催しており、今年は10月に名古屋市で「中部地方地質情報展」を計画していますので近隣の方々とは直接対話できると思います。是非、ご参加下さい。

◆現在、科学技術が進歩し便利になった反面、負の方向に地球が変わり地球環境対策に頭を悩ます今日では、「地球にやさしい科学技術」の発展が必要となっています。しかし、いくら地球に優しくしても地球も生きていますので突然ご機嫌を損なう時があります。これが火山噴火や地震で代表される地質災害です。これらの地質災害が起こった時には注目を集めるのですが、時間の経過とともに忘れられる傾向にあります。世界有数の変動帯に位置する日本では地質災害と隣り合わせで生活していることを忘れないことが肝要でしょう。今月号は地質災害関連の記事を2編掲載しております。

◆ライマン雑記も回数を重ねて16編となりました。いつものことながら、ライマンと日本人の弟子との間に培われた敬愛関係には感心させられます。このような関係が現代社会でもあれば、日米摩擦は起こらないのですが。
(有田正史)

地質ニュース編集委員会

委員長：有田正史

副委員長：石井武政

委員：佐藤興平・今井 登・村上文敏・大熊茂雄

顧問：林 暉・石原舜三・大嶋和雄・高橋 博

事務局：総務部業務課広報係（谷田部信郎・吉田朋弘）

〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-3

地質調査所 地質ニュース編集委員会

事務局 Tel. 0298-54-3520

Fax. 0298-54-3504

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ

地質ニュース	第533号	1999年	1月号
	定価¥785 (本体価格¥748)	〒実費	
1999年1月1日 発行	編集		
発行人	工業技術院地質調査所 株式会社 実業公報社		
発行所	代表者 林 光生 株式会社 実業公報社 東京都千代田区九段北1の7の8 〒102-0073 Tel. (03) 3265-0951 (代表) Fax. (03) 3265-0952 振替口座 00110-6-32466 麹町局私書箱第21号		
印刷	株式会社 エアフォルク		

© 1999 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンター
およびつくば市の友朋堂書店本店に常備してありま
す。また、最寄りの書店でも注文できます。